

ご意見をお聞かせください

新しい体育館づくり に向けて

目次

	頁
1. 新しい体育館の必要性について……	1
2. 建設場所について ……………	3
3. 体育館の規模 ……………	5
4. 新しい体育館づくりへ向けて ……	6

アンケート調査へのご協力をお願い

日頃から、市政へのご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症により、生活面や事業面において影響を受けておられる市民の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。市といたしましても、状況の変化を的確に見極めながら、一日も早い収束と地域経済の立て直しを目指し、全力で取り組んでまいります。

さて、現在の日向市体育センターは、屋内のスポーツ競技をはじめ、レクリエーションやイベントなどに活用され、年間約5万人以上が利用していますが、建設後、約50年が経過し、老朽化していることや耐震性の課題があることから、武道館と併せて、新たな体育館を整備する必要があります。

このため、市では、市民の健康増進やスポーツ活動の拠点となる新しい体育館の整備に向けて、令和元年7月に「市民検討委員会」を設置し、コンセプトや規模、場所、機能などについて検討を進め、同年11月に『日向市総合体育館整備基本構想』を策定し、建設に関する基本的な考え方をお示したところです。



現在の市体育センター(昭和45年(1970年)建設)

市としましては、市民サービスの向上やコスト削減を目指し、詳細な機能や最適な事業手法を検討する「基本計画」の策定にあたり、市民の皆様のご意見をいただきたく、アンケート調査を実施することといたしましたので、本調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

令和3年7月 日向市長 十屋 幸平

※この調査は、18歳以上の市民の皆様の中から3,000名を無作為に選んだ上で、お送りしています。

※本調査は無記名ですので、個人が特定されるようなことはありません。

※回答内容は、統計的に処理し、調査以外の目的に利用することはありません。

「日向市総合体育館整備基本構想」について

—新しい体育館づくりへ向けた「基本構想」の内容をお知らせします—

1 新しい体育館の必要性について

必要性

その1 施設の老朽化

「体育センター(昭和45年(1970年)建設)」と「武道館(昭和48年(1973年)建設)」は、ともに建設から50年近くが経過し、床の剥離や壁の亀裂など、施設の老朽化が進んでいることに加え、耐震性にも課題がある状況となっています。



その2 市民・利用者からの切実な声

スポーツ施設のニーズに関する市民アンケート調査(平成29年10月)では、機能強化をすべき、または、新たに必要なスポーツ施設としては「総合体育館・武道館」が最も多く、自由意見でも総合体育館の整備を望む意見が多く挙げられていました。

総合体育館の建設については、昭和60年からこれまで、過去9回の要望・陳情、その内3回は署名活動が行われており、令和元年7月には、過去最高となる約1万9千人の署名が集められました。



その3 地区大会が開催できない・災害時の避難スペースの確保が必要

現在の体育センターは、バスケットボール1面又はバレーボールで2面の広さで、県内他市の施設と比較しても小さな施設で、中体連等の地区大会の開催も、難しい状況となっています。

また、市内には、大規模災害時に中長期的な避難所として対応できる施設が不足しており、感染症対策等も考慮すると1人当たり3.5㎡の避難スペースを確保する必要があります。

これまでの検討経過

- 平成29年3月 「第2次日向市総合計画」策定 [重点戦略：体育館の整備推進]
- 平成29年3月 「日向市総合体育館建設基金条例」制定
- 平成30年5月 「日向市スポーツ施設整備基本構想」策定
- 令和元年7月 市民の意見及び提案を反映させるため「日向市総合体育館整備市民検討委員会」を設置。「市民検討委員会」では、基本コンセプトや規模、場所、機能などについて、先進地視察を行いながら、検討を重ねました。(全4回)
- 令和元年11月 基本構想(案)パブリックコメント
- 令和元年11月 基本構想(案)市民説明会(市内7か所)
- 令和元年11月 建設に関する基本的な考え方を示す「日向市総合体育館整備基本構想」を策定しました。
- 令和元年11月 市議会全員協議会へ報告

★総合体育館のキャッチフレーズ

～未来へ向かい あふれる笑顔で多世代がつながる
海と緑に囲まれた“健康長寿・スポーツ推進”拠点～

基本コンセプト

市民の誰もが日常的に
スポーツ活動、健康づくりに
親しみ、利用できる体育館



様々なスポーツ大会が開催され、スポーツ交流やイベントの拠点となる体育館



東日本大震災時の避難所の様子

災害時の拠点施設
となる体育館



市民検討委員会 ワークショップの様子



先進地視察の様子（アリーナくにとみ）

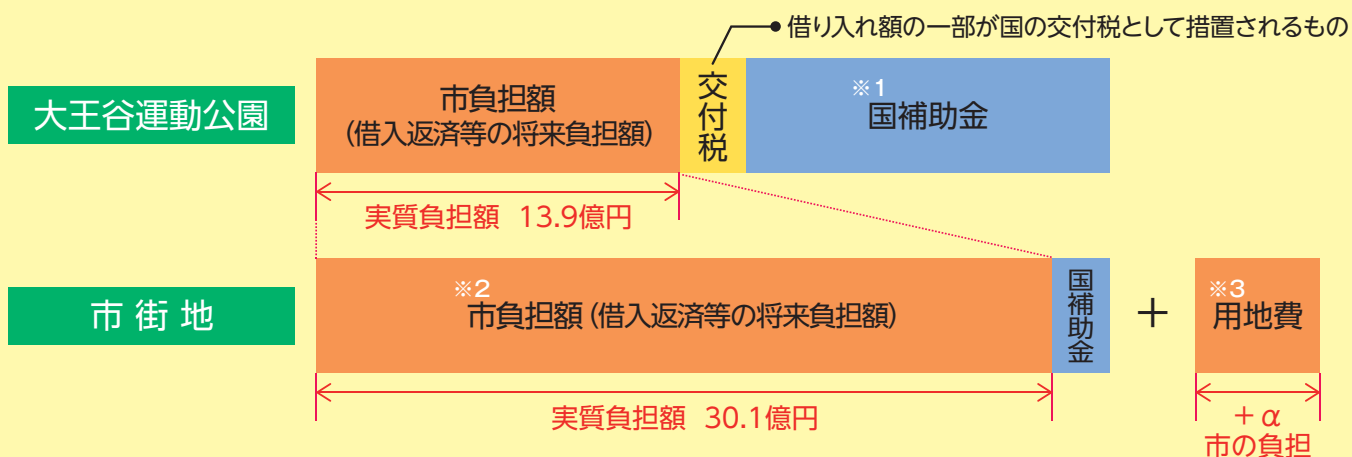
2 建設場所について

建設候補地は「お倉ヶ浜総合公園」、「大王谷運動公園」、「市街地」の3か所を選定していましたが、「お倉ヶ浜総合公園」は、大津波が発生した時に大きな被害が想定されているため候補地から除外し、「大王谷運動公園」と「市街地」の2か所について、以下の視点から比較、検討を行いました。

検討の視点	大王谷運動公園		市街地	
視点1 用地の確保 (経済性)	建設に必要な広さを、市が所有している土地で確保できる。	○	新しい体育館は、武道館との併設(合築)や、これまで開催できなかった地区大会等に対応できる体育館を想定していることから、現在の体育センター敷地での建設は困難。建設に必要な広さの土地が、市所有の土地にはない。	×
視点2 市の財政負担 (※次ページ参照)	都市公園であり、有利な国の補助金が見えるため、市の財政負担が軽くなる。	○	活用できる国の補助金が少なく、大王谷運動公園に比べて、市の実質負担額が2倍以上になる。	×
視点3 防災性	津波による被害が想定されておらず、土砂災害危険箇所の区域にも入っていない。	○	津波による浸水被害が想定されている。	×
視点4 拠点・利便性	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ施設が集積している。 ●JR日向市駅から約3kmの距離はあるが、国道10号と接続している。 ●バスが運動公園の近隣まで運行している 	△	現体育センターと立地環境が変わらず、JR日向市駅、国道10号からのアクセス性は高く、市民に慣れ親しんだ場所である。	○

建設費について、平成30年度に策定した「日向市スポーツ施設整備基本構想」においては、類似団体を参考に30億円～40億円と見込んでいましたが、施設規模の見直しや近年の建設需要による工事費の変動など、詳細な分析が必要なことから、建設後のライフサイクルコストを含め、今後のステップである基本計画策定・基本設計時に検討を行います。

■市の負担額の試算（建設費を30億円と仮定した場合のイメージ）



※「大王谷運動公園」の場合は、※1事業費の約半分に国の補助金が活用できます。しかし、※2「市街地」の場合は、国の補助金が少なく、借入れが多くなるため、大王谷運動公園と比較すると2倍以上の負担になります。また、※3土地を購入する必要があるため、別に用地費の負担も発生します。

どこが最適か検討

用地の確保や市の財政負担、津波などの災害時の対応等を総合的に判断し、「大王谷運動公園」内の老朽化した「水泳場」に整備することにしています。

- 大王谷運動公園の「水泳場」は、建設から40年近くが経過し老朽化が進んでいることから、今後、施設を維持していくためには、**多額の改修費用が必要になります。**
- 維持管理費用も、夏季1か月間の利用で、年間約900万円の費用が必要となっています。
- 水泳場が変わるものとして、小中学校のプール利用を検討していきます。



3 体育館の規模

- 新しい体育館は、市民の日常的な健康増進やスポーツ活動の拠点施設となることを目指していますが、現在の体育センターの規模では、各種地区大会等に対応できない等の課題があります。
- 市内の各種スポーツ競技団体が所属する市スポーツ協会においては、以前からバスケットボール3面又はバレーボール4面相当（アリーナ部面積約2,400㎡）規模を要望しており、平成30年5月に策定した「日向市スポーツ施設整備基本構想」では、要望のあった規模にて策定していました。
- 「市民検討委員会」で慎重な検討を重ねた結果、令和元年11月に策定した「日向市総合体育館整備基本構想」において、新しい体育館の規模を縮小し、以下のとおりとしています。

	日向市 体育センター 【現施設】	日向市 スポーツ施設設備 基本構想 【H30.5月策定】	日向市総合体育館 整備基本構想 【R1.11月策定】	(新)宮崎県立体育館 【R8年度供用開始予定】
アリーナ 床面積	約 917㎡	約 2,400㎡	※現在予定している 整備規模 約 1,900㎡	●メインアリーナ 約 3,000㎡ ●サブアリーナ 約 1,500㎡
施設 規模	バスケ 1面 バレー 2面 バドミントン 4面 ミニバレー 4面	バスケ 3面 バレー 4面 バドミントン 12面 ミニバレー 12面	前構想より規模の縮小 バスケ 2面 バレー 3面 バドミントン 8面 ミニバレー 8面	●メインアリーナ バスケ3面 バレー4面 ●サブアリーナ バスケ2面 バレー3面

→ 現施設より規模の充実 ← 同規模

規模は延岡市に整備される新県立体育館のサブアリーナ程度（バスケットボール2面又はバレーボール3面相当／アリーナ面積 1,900㎡）、大規模災害時の中長期的避難所を想定し（約540人の避難生活が可能：空調、備蓄倉庫、非常用電源設備、非常用給水設備等を設置予定）、多様化する市民ニーズや各種スポーツ団体等のニーズに対応できるよう施設の充実を図ります。

県内他自治体の状況

所在地	体育館	規模	アリーナ面積(㎡)
宮崎市	宮崎市総合体育館	バスケ2面・バレー3面	1,840
	佐土原体育館	バスケ2面・バレー3面	1,656
都城市	早水公園サブアリーナ	バスケ2面・バレー3面	1,617
国富町	アリーナくにとみ	バスケ2面・バレー3面	1,892





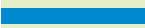


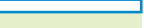



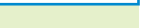







4 新しい体育館づくりへ向けて

市では、東郷診療所の整備を優先することなどを総合的に判断し、従来のスケジュール(基本構想策定時)から1年延期し、事業を進めていきます。

【整備スケジュール(案)：令和2年12月現在】

凡例：従来のスケジュール 

延期したスケジュール 

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
基本構想策定								
事業手法検討								
基本計画策定								
事業者選定								
設計								
造成(解体)工事								
建築工事								
外構工事								
運営・管理								

新しい体育館は、将来にわたって、子どもから高齢者までが広くスポーツや健康づくりに親しむことができる拠点施設として、多くの市民に愛される体育館を目指しています。

今後も、情報発信に努めるとともに、市民の皆さんへの丁寧な説明と対話を行いながら事業を進めていきますので、引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

※別紙、アンケート回答用紙へ記入をお願いします。

新しい体育館の建設に関する疑問にお答えします。

Q1. 災害時には、どのような利用を考えているのですか？

- A. ◎地震直後の一時避難所としての活用も考えられますが、主に大規模災害時の中長期的な避難所として想定しています。(アリーナ面積より、約540人の長期避難所生活が可能)
- ◎災害時に必要な飲食物や毛布等を保管する備蓄倉庫や非常用電源、貯水タンク等を備えた施設を整備します。
- ◎隣接する陸上競技場に臨時ヘリポートが設置されることになり、けが人や病人の搬送、支援物資の受け入れ等、迅速な対応が可能となります。

Q2. 水泳場（プール）をなくすのですか？

- A. 大王谷運動公園の水泳場は、老朽化が進み、夏季の約1か月間開設するための維持管理（年間約900万円）や大規模な改修には、多額の費用が必要な状況を踏まえ、水泳場を取り壊して建設することにしました。水泳場の代替案としては、学校の夏休み期間中のプールの開放を検討しています。

Q3. 東郷診療所や図書館は、いつ整備されるのですか。

- A. ◎東郷診療所は、令和3年4月から運営形態を無床診療所に移行し、新たなスタートを切りました。今後は、令和3年6月に策定した「日向市立東郷診療所基本計画」を踏まえ、老朽化した施設の早期整備（令和6年度供用開始）を目指し、最優先に取り組みます。
- ◎図書館については、施設の老朽化や蔵書スペース・閲覧スペースが不足していることから、市民が利用しやすい図書館のあり方等について検討する必要があります。そのため、新たな交流拠点としての役割を果たす複合的な機能を備えた図書館の整備について、今後、調査研究に取り組むことにしています。
- ◎現在の体育センターは、施設の老朽化が進み、耐震性にも課題があることから、まずは、災害時に防災拠点施設としての役割も担う新たな体育館の整備を優先的に進め、市民の安全・安心を確保していきます。

○このアンケート調査は、封筒のあて名のご本人様を対象としています。

○回答は、この資料をご覧になり、別添の「回答用紙」にご記入ください。

○記入された回答用紙は、同封の返信用封筒に入れ、8月3日(火)までに郵便ポストに投函してください。(切手を貼る必要はありません。)

○「基本構想」の詳細は、市のホームページ>注目プロジェクト>新しい体育館づくり>「日向市総合体育館整備基本構想を策定しました」をご覧ください。(http://www.hyugacity.jp)

○資料の内容が不明な場合など、この調査や新しい体育館整備に関するお問い合わせについては、下記へご連絡ください。

日向市総務部資産経営課 体育館建設準備係

〒883-8555 日向市本町10番5号

電話：52-2111(内線2283) 66-1013(直通)

FAX：54-8747

メール：shisankeiei@hyugacity.jp



市のホームページ
QRコード